研究報告

〈小学校国語〉

語彙力を高める学習指導の工夫

―低学年から国語辞典に慣れ親しむ活動を通して―

宮古島市教育研究所　第 14 期研究教員

宮古島市立下地小学校　　大庭　優子

目　　次

Ⅰ　主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

Ⅱ　研究目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

Ⅲ　研究仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

Ⅳ　研究構造図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

Ⅴ　研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
　１ 研究方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
　２ 語彙指導について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
　３ 国語辞典に慣れ親しませることについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
　４ 国語辞典（小学生用）について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

Ⅵ　実践内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
　１ 辞書引きの意欲を高めるための取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
　２ 国語辞典を活用した，語彙力向上を図る日常的な取り組み・・・・・・・・・・・・・・９
　３ 調べることへの広がりを持たせる環境づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
　４ 授業計画（全９時間）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
　５ 全指導案
　　⑴～⑽指導案・ワークシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１～２６

Ⅶ　研究仮説の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
　１ 検証視点①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
　２ 検証視点②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
　３ 検証視点③・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０

Ⅷ　研究の成果と課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
　１ 成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
　２ 課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３

〈主な参考文献並びに引用文献〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
〈指導助言〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
〈資料提供〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３

〈小学校国語〉

語彙力を高める学習指導の工夫

―低学年から国語辞典に慣れ親しむ活動を通して―

宮古島市立下地小学校　教諭　大　庭　優　子

Ⅰ　主題設定の理由

国語は学習するすべての教科の要であり，どの教科も「国語」を抜きには学べないと考えている。国語で学ぶ，読む･書く・話す･聞く等の学習は，他の教科書を読み，理解し，応用的な学習への発展へとつなげていくための基本であり，「国語」という教科は「学ぶための基礎」を学んでいるといっても過言ではない。特に小学校段階は，発達段階から考えて最も国語力の向上に重要な時期である。

学習指導要領改定により，国語科では，新たに「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を設けた。内容としては，我が国の言語文化に親しむ態度を育てたり，国語の役割や特質についての理解を深めたり，豊かな言語感覚を養ったりするための事項を取り上げている。これは，児童に「生きる力」をはぐぐむことが重要視され，その基盤として「言語」に関する能力の育成が求められているからであり，言語は知的活動（論理や思考）だけでなく，コミュニケーションや感性・情緒を支えているものだからである。そのためにも，言語指導について学習活動の具体化を図る必要性があるといえる。

本校児童の国語理解の実態として，標準学力調査等の結果から，読解力，言語分野に落ち込みが見られる。また，学習活動の中で，言葉の意味が分からないために語彙への質問や説明に時間を要したり，学習内容への理解が深まりにくかったりすることがある。表現力の乏しさゆえに，応用的な学習における思考の説明がうまくできない児童が多いのも現状である。様々な学習指導に関わっていく中で，これらの原因の根底にあるのは語彙力不足ではないかと考えた。このような児童の実態から学力向上の基礎となるのは「語彙力を身に付けること」ではないかととらえている。

語彙力を身に付けるためには，言語環境の工夫改善が必要である。たくさんの言葉に触れる環境，また文章を書く基礎となる漢字を覚えることや，児童が知らない情報や知識を獲得する環境の改善が必要である。更に知識を獲得するためには，物事への知的好奇心を高めることも重要である。そこで，それらの要素を併せ持った学習教材「国語辞典」を，児童が自ら様々な語彙を獲得する一つの手だてとして活用し，語彙力の向上を図ることにした。

言葉についての知識を得たり，理解をより深めたりするために，国語辞典は大変有益な書籍である。意味調べはもちろんのこと，様々な言葉を獲得したり漢字の書き表し方を確認したりすることもできる。また，すべての学習活動の中で活用することもできる。そして，小学生用の国語辞典には，載っているほとんどの漢字にルビがうたれていることから，低学年でも辞書を引き，言葉を調べることは可能である。本来なら 3 年生で国語辞典に関する学習を行い，活用を広げていくが，様々な言葉を吸収し国語の基礎を身に付ける低学年から慣れ親しんでおくことで，語彙の獲得量が増え，語彙力の向上が期待できるのではないかと考えた。

以上のことをふまえ，低学年から国語辞典に慣れ親しませる活動を通して語彙力を育成し，学力向上に繋げていきたいと考え，本テーマを設定した。

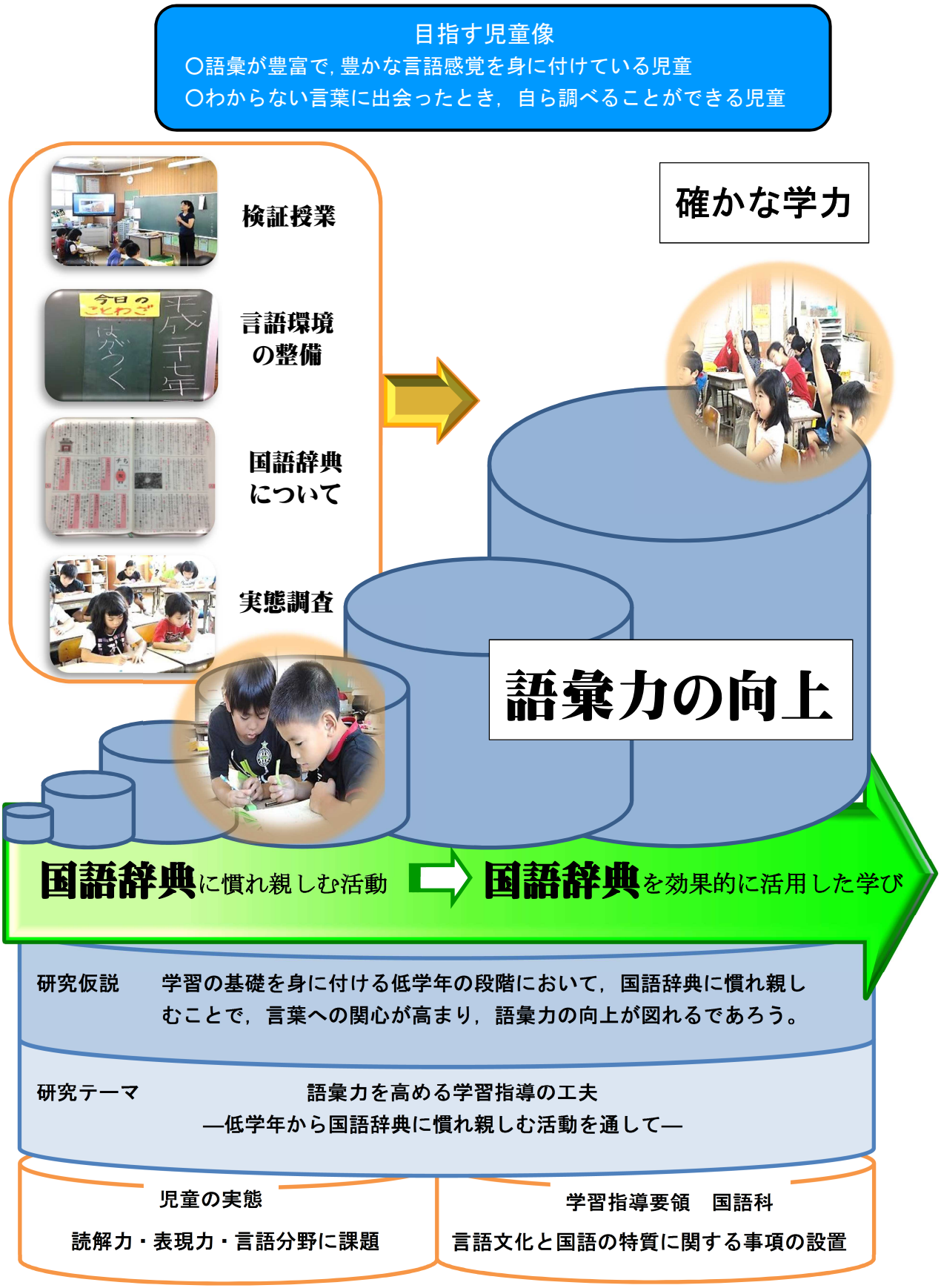
Ⅱ　研究目標

日常的に国語辞典に慣れ親しませることにより，児童自ら，様々な語彙を獲得し，語彙力の向上が図れるのではないかということを，実践を通して明らかにする。

Ⅲ　研究仮説

学習の基礎を身に付ける低学年の段階において，国語辞典に慣れ親しむことで，言葉への関心が高まり，語彙力の向上が図れるであろう。

Ⅳ　研究構想図



Ⅴ　研究内容

1　研究方法

(1) 実態調査

① 語彙に関する実態調査　　② 語彙力に関する実態調査

(2) 国語辞典について

① 国語辞典の特質　　② 辞書引きの学習の取り組み

(3) 言語環境の整備

① 教室掲示の工夫　　② 家庭との連携を図る

(4)　検証授業

① 国語辞典を活用した授業展開

(5)　児童の変容調査

① 語彙に関する実態調査　　② 語彙力に関する実態調査　　③ 辞書引きに関するアンケート

2 語彙指導について

文部科学省は「国語力を身に付けるための国語教育の在り方」の中で，「思考そのものを支えていく語彙力の育成を重視していくことが必要である。」と明記している。また，平成 26 年 6 月に宮古島市教育事務所で行われた「第 1 回小学校国語授業改善研修会」では，学力調査官・教育課程調査官である樺山敏郎氏が「宮古島の児童は語彙が乏しい。語彙のみに特化して取り組む事も必要である。」と述べていた。語彙力の向上が学力の向上につながっているのは明らかであるといえる。

また，国語教育学者である田近洵一氏は著書『たのしいことばの学習』の中で「言語指導の中心は言語知識の習得にあるが，それを支えるのは，言語に対する知識や関心である。言語の使い方に目をつけたり，それを研究したりしようとすることが，言語知識とその習得とを支えているのである。」と述べている。そして，ことばの学習の視点を表 1 のように明記している。

低　学　年	中　学　年	高　学　年
ことばに関心を持つ	ことばの使い方を工夫する	ことばを研究する

⇩

発音のしかた，語の意味，語と語の結びつきなどの観点から，ことばそのものに目を向けるようにさせることである。そして，ことばについて勉強することのおもしろさを知らせることである。ことばに目を向け，そのおもしろさに目をひらくこと，そしてことばを勉強することのおもしろさを経験させること，それが，やがて言語の体系的な学習の土台となる。

▲表 1　言葉の学習の視点

言葉の獲得には，言葉に対する知識や関心が必要であり，言葉への意識を高める指導の工夫が重要である。そして，低学年では「ことばに関心を持つ」ことに視点を置き，児童が言葉のおもしろさを感じて，楽しみながら言葉を獲得するような取り組みを行うことで，中学年・高学年の言語知識の深まりへとつなげていくことができると考える。児童の知的好奇心を高め，楽しく語彙を獲得できるような指導の工夫改善を行っていきたい。また、言語環境や体験を伴った言語活動も児童の語彙力に大きく影響するものだととらえている。教室環境の整備、クラス全体が言葉に敏感になり、お互いで高め合っていくような雰囲気作り、児童自らの活動によって言葉を獲得するような取り組みの工夫、などを行うことによって、児童の語彙力は更に向上していくのではないかと考えている。これらのことを念頭に置き、低学年における語彙指導の工夫改善を図っていく必要がある。

３　国語辞典に慣れ親しませることについて

⑴　低学年における国語辞典の取り扱い

『小学校学習指導要領　国語編』の中でこれまでは，中学年においては「辞書を利用して調べる方法を理解すること」を，高学年においては「辞書を利用して調べる習慣をつけること」を指導することとしていた。しかし今回の改訂により，中学年に「表現したり理解したりするために必要な文字や語句について，辞書を調べる方法を理解し，調べる習慣を付けること」（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項　⑴イ(ｶ)）と示している。これは，辞書を利用して調べる習慣を付けることの重要性を考えてのことであり，授業における国語辞典の効果的な活用を工夫していく必要性があるといえる。また，「指導計画の作成と内容の取扱い」では，「学校や学年あるいは学級の児童の言語能力や言語体験の違いなどに応じて，学習のねらいや児童の興味や関心を考えながら計画を立てる必要がある。その際，各学年の内容に基づきながらも，その前の学年において初歩的な形で取り上げたり，後の学年において程度を高めて取り上げたりすることも考えられる。」と明記されている。これらのことから，国語辞典について学習する３年生の前段階の２年生から国語辞典に慣れ親しませることも可能であると判断した。

また，２年生は国語辞典に関する知識や利用経験がほとんど無いものと思われるため，国語辞典に関する内容を取り立てて指導する必要がある。「指導計画の作成と内容の取扱い」には「特定の事項をまとめて指導したり，繰り返して指導したりすることが必要な場合については，特にそれだけを取り上げて学習させるよう配慮すること。これは，知識・技能の定着を図るために，まとめて単元化して扱ったり，特定の時間を確保して繰り返し指導したり，学期や学年を超えて指導できることも示している。」ともある。このことから，まずは国語辞典について知る時間を設定することで国語辞典への興味関心を高め，楽しく丁寧に取り扱うことにより，児童の学ぶ意欲の向上と辞書引きの定着を図っていきたいと考えた。

⑵　低学年で国語辞典に慣れ親しませる意義

「9 歳の壁」という言葉がある。この言葉は 9，10 歳頃の児童に精神面・学力面で変化が現れるということを示している。近年，この時期に学習についていけない子どもが増える傾向にあることが，注目されるようになった。この時期は小学 3，４年生にあたり，学習内容が目で見ればすぐわかる内容から，抽象的で質的な内容に変わっていく時期である。なぜこの時期を乗り越えることができないのだろうか。教育アドバイザーである糸山泰造氏は著書『絶対学力「9 歳の壁」をどう突破していくか？』の中で，このように述べている。「人は通常，9 歳前後を境に思考形態が変わる（日常的で現実的なことだけを考える→いろんな考えができる）ようになっています。この境を乗り越えることで成熟した考え方（抽象思考）ができるようになるのです。ところが，頭の中での言葉の操作（思考）が十分にできないと，この境を乗り越えられなくなってしまうのです。私は，低学年の時に深い学習を怠った結果，表面的な理解に止まってしまうことが原因だと考えています。」糸山氏は低学年の時期に「考える力」を育てる学習が如何に重要であるかを説いており，低学年における考える学習の工夫が，その後の学力に大きく影響することを示唆している。9 歳までに身に付けておくべき「考える力」に欠かせないものの中には，語彙力も含まれるのではないだろうか。

また，辞書引き学習法の開発者である中部大学准教授の深谷圭助氏は，著書『はじめての辞書引きワーク　国語辞典編』の中で，「小学校低学年は，文字が読めると嬉しい，文字が書けると嬉しい，と素直に喜べる時期です。」と述べ，文字を魅力的に感じるこの時期に，徹底的に文字に親しむ機会を与えることが重要だと説いている。また，「なぜ？どうして？と素直に問うことのできる臨界期が小学校低学年であり，成長するにしたがって疑問を持たなくなって，知らないことが恥かしいと思うようになります。そうなる前に，疑問に思ったことはこだわりをもって，納得できるまで追求する態度や構えを身に付けさせることが重要です。」とも述べている。「その

ためには，早い段階で子どもに辞書を与え，素朴な問いに関する答えを自分の力で調べていくことの楽しさを教えていくことが必要です。」このような確言から，低学年のうちから国語辞典に慣れ親しみ，文字や言葉を追求する経験を重ねることで探究心を養い，考える力の基礎を育てていくことが重要であると考える。

また，表２の小学校の授業時数を見てみると，国語の授業時数が他の教科に比べて多く，特に１・２年生が最も多くなっていることが特徴として挙げられる。

区分		1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年
	国語	３０６	３１５	２４５	２４５	１７５	１７５
	社会			７０	９０	１００	１００
	算数	１３５	１７５	１７５	１７５	１７５	１７５
	理科			９０	１０５	１０５	１０５
	生活	１０２	１０５				
	音楽	６８	７０	６０	６０	５０	５０
	図画工作	６８	７０	６０	６０	５０	５０
	家庭					６０	５５
	体育	１０２	１０５	１０５	１０５	９０	９０
道徳		３４	３５	３５	３５	３５	３５
外国語活動						３５	３５
総合的な学習の時間				７０	７０	７０	７０
特別活動		３４	３５	３５	３５	３５	３５
総授業時数		８５０	９１０	９４５	９８０	９８０	９８０

国語が学習の３分の１を占める

▲表２　小学校年間授業時数

国語は割合的に見ても１・２年生共に学習全体の３分の１以上をしめており，週９時間も授業が組まれていることから，この時期の児童に国語は大変重要な学習であるといえる。国語の時間をいかに工夫し言葉の基礎知識を身に付けるかによって，今後の学力に大きく影響するのではないだろうか。国語の時間に国語辞典に慣れ親しませる活動をスタートさせ，すべての学習活動や日常生活の中でも活用できる能力を育成していきたいと考える。

(3) 国語辞典に慣れ親しませるとは

『小学校学習指導要領　国語編』の中に，「辞書を利用する能力や態度を育て，習慣を付けるために，国語辞典や漢字辞典などの使い方を理解するとともに，必要なときにはいつでも辞書が手元にあり使えるような言語環境をつくっておくことが重要である。また，国語科に限らず，他の教科等の調べる学習や日常生活の中でも積極的に辞書を利用できるようにすることが大切である。」（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ　語句に関する事項）とある。辞書引きの習慣化を図るためには，「辞書が手元にある」ことに加え，児童自らが辞書を引きたいという意欲を持つことが重要である。そのためには，児童に国語辞典を魅力あるものと捉えさせ，楽しみながら辞書引きを日常的に行う取り組みの工夫が必要である。

辞書引き学習の開発者である深谷圭助氏は，著書『辞書引き学習で子どもが見る見る変わる』の中で「現在の辞書指導は，「国語辞典はわからない言葉があったら引くもの」として「引き方

を教えること自体が目的化」しているので，子どもにとって全く魅力のないものになってしまっています。引き方を覚えることから始めるのではなく，まずは辞書を開いて知っている言葉を探すという行為からスタートします。辞書を読むことから辞書引き学習法は始まります。自分の意思で言葉を見つけて引いていき，自ら学んでいくので自学自習の習慣も身につきます。」と述べている。2 年生の児童には「辞書の活用能力」を求めるのではなく，「辞書に慣れ親しむ」ことを通して，辞書引きの習慣化や語彙力の向上を図りたいと考える。「一斉に引き方を指導して，意味調べに活用する」という学習方法ではなく，「辞書から楽しく言葉を探す」ことを日常的に行い，多くの言葉と出会うことで，語彙力への向上や辞書引きへの習慣を図りたいと考える。

調べる内容の深まり

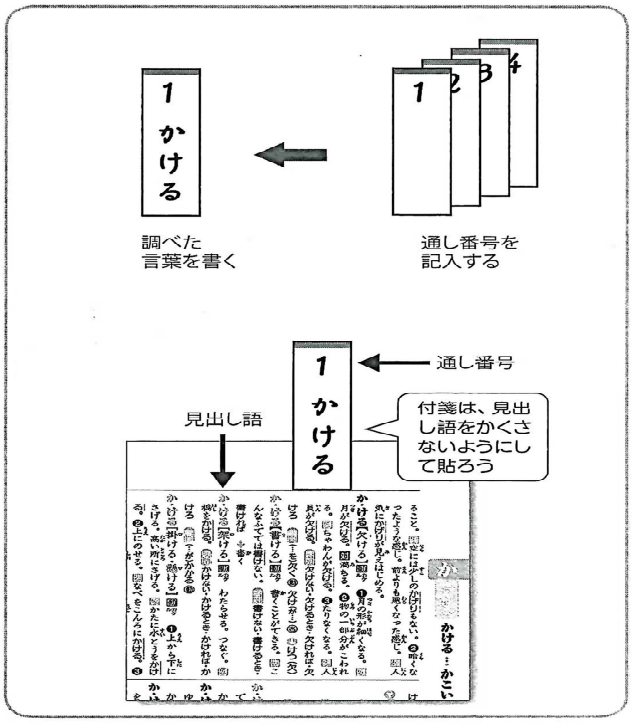
○生活語彙を辞書の中から発見していく。
○知っている言葉を調べていく。
○知らない意味の言葉や漢字を調べる。
（授業や生活の中で活用するようになる。）
（言葉に敏感になる。）
○様々な辞典や図鑑などに興味を持ち，学びを広げていく。

辞書引きの習慣化

辞書構造の理解の深まり

☆漢字・意味の表記があることに気付く。
☆五十音順に記載されていることに気付く。
☆つめや柱の活用法に気付く。
☆言葉は言い切りの形で記載されていることに気付く。
☆ ↔ や 例 が対義語や用例を表していることに気付く。

▲図１　　辞書に慣れ親しむ活動の流れ



深谷圭介著書　小学館
「辞書引き学習で子どもが見る見る変わる」より引用

辞書引き学習の手順

①付箋に通し番号をふる。
⇩
②辞書を開いて「知っている言葉」を探す。
⇩
③見つけた言葉と，書かれている内容を，声に出して読む。
⇩
④見つけた言葉を付箋に書いて，そのページに貼る。

※児童の実態から，今回は③を加えて実践を行うこととした。

▲図２　　辞書引き学習の手順とコツ

4 国語辞典（小学生用）について

(1) 国語辞典の特質

① 言葉の意味を調べることができる。
② 漢字の表記・用例・類義語・対義語を知ることができる。
③ 外来語等を含む，多種多様な語彙に触れることができる。
④ 小学生用は図や写真による解説があり，内容への理解がより深まりやすい。
④ 五十音表記の順番を学び，確認することができる。
⑤ 調べたい言葉だけでなく，横並びの言葉も視覚に入ることで，より多くの語彙を獲得できる。
⑥ 裏表紙や付録等に言葉への知識が深まる工夫がされてある。
⑦ すべての教科の学習・生活において活用することができる。
⑧ 書き込みをしたり，付箋を貼ったりすることができる。
⑨ 自ら調べ，自ら学ぶ習慣を身に付けることができる。

▲図３　教育同人社　小学 国語辞典より

(2) 国語辞典を選択するときの視点

書店では主に 8~10 種類の国語辞典が並んでいる。国語辞典によって 25000 語~37000 語の言葉の集録数があり，見出し語の文字の大きさ，色使い，図や写真の掲載の仕方，付録の内容等，様々である。実際に見比べて購入することによって，気に入った辞書を見つけることができる。自分の辞書への愛着が，辞書引き学習への意欲の向上につながっていく。選択の視点として，

① 言葉の収録数が多い辞書がよい。調べた言葉，調べたい言葉が掲載されていないと，子どもの調べる意欲が削がれてしまう可能性がある。
② 総ルビつき（ひらがなつき）がよい。意味を説明する文の漢字が読めないと語彙理解ができず，同様に子どもの調べる意欲が削がれてしまう可能性がある。
③ 改訂されている辞書がよい。言葉は月日を経るに従って意味や使われ方が変化し，新しい言葉も登場してくる。できるだけ辞書の発行年が新しいものがよく，また売れている辞書はたいてい改訂されていることが多い。
④ 同じ言葉を複数の辞書で引いてみて，分かりやすい感じる方がよい。読み比べると，辞書によって説明の視点が違っていることに気付く。児童が気に入った方を選ぶことで「自分の辞書」として大事に使うようになる。また，その辞書を使うのが楽しいかどうかも重要なポイントである。引き続けたくなる辞書は挿絵が豊富であったり，写真や学習に役立つコラムが載っていたりするなど，様々な工夫が凝らされている。楽しみながら学べるということが，初めて出会う辞書にとっては何より大切である。
⑤ 漢字の書き順が丁寧に記載されている方がよい。漢字への興味がわき，書き順の確認や，習っていない漢字を書くこともできる。

などが挙げられる。

Ⅵ　実践内容

1　辞書引きの意欲を高めるための取り組み

(1)　付箋の活用

一度調べた言葉には付箋を貼っていく。付箋を貼ることにより，調べた事を忘れたとしても，もう一度思い出し，確認することができる。なにより，学習したものを目に見える形として残すことができ，「自分はこんなにいっぱい調べものをした。」という達成感につながっていく。友達と競争しながら辞書を引く子も増え，教室全体が活気づいてきた。また，付箋に数字を書き込むことで調べた語彙数もすぐに分かり，意欲の向上を図ることもできる。

▲写真１　調べた言葉に貼られた付箋

(2)　辞書バックの活用

辞書を常に机上に置き，調べることを日常的に行うことが理想である。しかし，教科の内容によっては机上を広く使用したい場合もあるので，専用バックに辞書と付箋をいれ，机の横に掛けておくことにした。本棚やロッカーにしまうと調べることを怠りがちになってしまう恐れがあり，いつでも手に取れる場所に辞書を置くことで，調べたい語彙に出会ったらすぐに引くことができる環境となる。また，バックに入れることでそのまま家庭に持ち帰ることも可能となり，家でも辞書引きの習慣化を図り，保護者の協力や励ましを得ることもできる。

▲写真２　机の横に辞書バックをかける

(3)　五十音表の活用

子ども達が国語辞典を引くとき，大きな問題になるのが「時間がかかりすぎる」ことである。原因はいくつか考えられるが，最大の要因は子どもが「五十音の配列」を即座に頭の中で整理できないことにあるのではないかと考える。特に低学年はその傾向が大きいと思われる。そこで，国語辞典より少し小さいサイズの五十音表を個人で持ち，常に辞典の中に挟んでおくことで，辞書引きの際に活用できるようにした。また，教室の壁面に濁音・半濁音・拗音を含んだ，ひらがな表・カタカナ表を掲示し，調べたい言葉を文字で確認できるようにした。

▲写真３　個人用の五十音表

(4)　達成賞

児童の学ぶ意欲を維持し，更に高めていくためには，賞賛や達成感を感じさせる工夫が必要である。そこで達成賞を与えることで辞書引きの活動を認め，褒めるようにした。そうすることで，辞書引きへの意欲の維持や語彙意識の向上につなげていくことができるだけでなく，自己への自信を高めることもできる。本学級の児童の実態から，達成賞は辞書引き 200 回達成ごとに与えることとした。（400 回，600 回・・）スモールステップで目標を持たせることで，意欲の維持につながっている。

▲写真４　辞書引き達成賞

２ 国語辞典を活用した，語彙力向上を図る日常的な取り組み

(1) すべての学習（学校教育全体）で活用

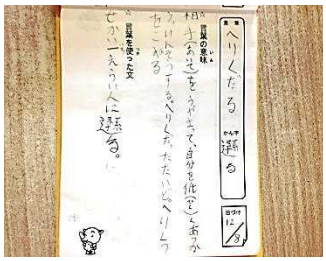
机の横のバックに常に辞書があることで，わからない言葉や，知りたい漢字があると，すぐに取り出し調べることができる。国語の教科書に出てきた「親愛」「親友」「下山」などの言葉も，すぐに辞書を引いて意味を調べていた。一人が調べると次々にクラス中が調べはじめ，学ぶ意欲が広がっていく。他の教科の時間にも，わからない言葉に出会うと「国語辞典で調べていい？」という声が聞こえるようになった。また，担任の「持久走大会は延期です。」という話を聞き，「延期？中止じゃなくて？」「延期と中止って何が違うの？」という意見から，全員で辞書を引き，意味を調べることで教師の話に納得する場面もあった。

▲写真５　分からない言葉はすぐに調べる

▲写真６　すべての学習で活用

(2) ワードハンティング辞典をつくる

日常生活の中で出会った，気になった言葉やわからない言葉の意味と例文（自分で考えた文でも，国語辞典の例文を書いてもよい）を国語辞典から調べ書き込む。言葉は，テレビや本の中からなど，生活のどの場面から見つけてもよく，一日一語を目標に取り組んでいる。言葉への関心には個人差もあるので，無理なく取り組ませるようにしている。



▲写真７　ワードハンティング辞典

(3) 今日のことわざや四字熟語，今日のワードハンティングの掲示

放課後に行う日直の仕事の一つとして，毎日行っている。短冊黒板を利用し，ことわざは表に言葉を，裏に意味を書いている（ことわざ辞典・四字熟語辞典を活用）。ワードハンティングは表に言葉を，裏に例文を書いている。日直の仕事にすることで，約 3 週間に一度は，全員に言葉を調べて書く機会があり，毎日新しい言葉に出会うこともできる。また，低学年の児童は，黒板に字を書く活動を楽しんで行うので，意欲的に取り組む様子がみられる。書いた言葉は，朝の会で紹介している。

▲写真８　今日のことわざの掲示

３ 調べることへの広がりを持たせる環境づくり

教室に数種類の辞典や図鑑を置いたところ，学習の間や放課後等に，友達と競い合って見る様子がみられた。「動物図鑑」で見たことでわからない言葉があれば「国語辞典」で調べたり，また「国語辞典」で調べた国名を「世界地図事典」で調べて位置や形を確認したりと，他の書物と関連させながら調べる活動を楽しんでいる。地球儀にも興味を持つ子も多く，関心の広がりを感じている。

▲写真９　教室におかれた辞典や図鑑

また，現在児童が使っている国語辞典は児童用であるため，知りたい言葉が載っていないことが何度かあった。そこで，「広辞苑」を紹介してみたところ，児童は言葉の多さや本の厚さに大変驚いていた。字の小ささや漢字にルビがふっていないことなどから，現時点での活用は難しいと思われるが，このような辞典もあることを知らせることで，調べることへの興味や意欲を高めて欲しいと考えている。

▲写真 10　地球儀も活用して調べる

４　授業計画（全９時間）

	時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
国語辞典に親しむ	1	・国語辞典の中から自分が知っている言葉を見つける。 ・楽しい辞書引きのコツを知る。	・国語辞典を開き，自由に知っている言葉を見つけさせる。 ・国語辞典に関心を持たせる。	【関】国語辞典に興味を持ち，知っていることばを見つけている。
	2	・言葉を比較し，国語辞典に載っている順番を考える。 ・既習教材の中から，言葉を調べ，意味をノートに書き写す。	・国語辞典は五十音順に言葉が掲載されていることを確認する。 ・言葉が見つけられない児童への支援を行う。	【関】国語辞典の特徴に気付き，自ら言葉を探し出そうとしている。
	3	・語形変化する言葉があることを知り，終止形に戻す。 ・「ワードハンティング辞典」作成について知る。	・言葉の特徴（動詞・形容詞・形容動詞）に注目させる。 ・「ワードハンティング辞典」の例を示す。	【関】身の回りから言葉を探し，国語辞典で調べノートに書いている。
「見つけよう！ようすをあらわすいろんなことば」（国語辞典の活用）	4	・担任の動作を見て，その様子を表す言葉を考える。 ・様子を表す言葉を聞いて，その言葉が表す様子を表現する	・教師が歩く様子をじっくりと観察させる。 ・体感することで様子を表す言葉への理解を深めさせる。	【関】様子を表す言葉に興味を持ち，そのあらわす内容を考えようとしている。
	5	・雨の写真や動画から擬態語を考える。 ・物語の場面に適した擬態語を考える。	・視覚的にも聴覚的にもとらえ，様子を表現させる。 ・絵本から様々な言葉の表現に触れさせる。	【言】様子を表す言葉を知り，その使い方について理解している。
	6	・写真から比喩を使った様子を表す文を考える。 ・ペアで文を紹介し合い，よさを伝え合う。	・「スイミー」の文章から，たとえるものとたとえられるものの共通性を考えさせる。 ・友達の表現の良さに気づかせる。	【言】様子を表す言葉を知り，その使い方について理解している。
	7	・主語と述語を意識して，様子を表す言葉を使った短文づくりをする。 ・グループで発表し合いよさを伝え合う。	・主語や述語について学習を振り返る。 ・スムーズに取り組めない児童には，その言葉に続く言葉から考えさせる。	【言】様子を表す言葉を知り，その使い方について理解している。 【言】主語と述語を意識して書いている。
	8 本時	・文の内容を想像して，様子の違いを考える。 ・国語辞典から「見る」ことを表した言葉を探し出す。 ・言葉を選び，作った文章を発表し合う。	・文を書いたり，友達が書いた文を聞いたりすることで言葉の使い方への理解を深めさせる。	【言】様子を表す言葉を知り，その使い方について理解している。
	9	・「見る」ことを表した言葉の意味（各グループ１つ）を調べ，動きを考えて表現する ・文をつくり発表し合う。	・「見る」動きを表したカードを用意し，動きを話し合わせることで意味理解を深めさせる。	【書】言葉の意味をとらえ，つながりのある文を書いている。

わからない言葉を国語辞典で調べる。　気になった言葉をワードハンティング辞典に書き込む。

5　全指導案

(1) 指導案　第 1 時（10 月 30 日）

① 本時の目標

・知っている言葉を国語辞典から見つける。

② 授業仮説

・初めて国語辞典を使用する段階において，自由に知っている言葉見つけをすることで，国語辞典への興味・関心が高まるであろう。

・言葉を見つけた時点で付箋をそのページに貼る活動を行うことで，引いた言葉や引いた回数が明確になり，辞書引きの意欲へとつながっていくであろう。

③ 教具・諸準備

・国語辞典　　・付箋　　・辞書バック

④ 本時の展開

	主な学習活動	◆指導上の留意点　□発問	☆支援　◇評価
つかむ	1　しりとり遊びをする。	◆一人ひとり順番に行う。 □「いろいろな言葉がわかる本があるのを知っていますか。」 ◆国語辞典を配り，「国語辞典」という名称を確認する。	☆支援を必要とする児童には，文字が大きく，絵の説明が多い国語辞典を配布する。
ふかめる	2　国語辞典を受け取り，自由に開いてみる。 国語辞典の中から知っている言葉を見つけよう 3　見つけた言葉を発表し合う。	◆国語辞典のどこをみたらよいのか確認する。（見出し語）	 ▲付箋の使い方の説明
ひろげる	4　付箋に①から⑤まで番号を書く。 5　国語辞典の中から知っている言葉を見つけたら声に出して書いてある内容を読み，付箋に言葉を書いて，そのページに貼る。	◆付箋を配り，使い方を説明する。（①番号を書く　②言葉を書く　③貼る） ◆見つけた言葉は声に出して読むことを確認する。 ◆時間を見て，さらに言葉を見つけたい児童には自由に引かせる。	☆言葉が見つけられない児童への支援を行う。 ◇国語辞典に興味を持ち，意欲的に言葉を見つけている。[観察] ▲付箋に言葉を書き込む様子
	6　学習を振り返って感想を発表する。	◆辞書引きの意欲を褒め，空いている時間にたくさん言葉を見つけるよう勧める。 ◆辞書バックを配布する。	

⑤ 本時の評価

知っている言葉を国語辞典から見つけることができたか。

(2) 指導案　第２時（11 月 5 日）

① 本時の目標

・知りたい言葉を国語辞典からさがし出す。

② 授業仮説

・言葉を比較することによって文字に注目し，言葉の中の１つひとつの五十音を意識することができるであろう。

・わからない言葉に出会っても，国語辞典の五十音表記を理解することにより，自ら調べることができるようになるであろう。

③ 教具・諸準備

・国語辞典　　・付箋　　・五十音表

④ 本時の展開

	主な学習活動	◆指導上の留意点　□発問	☆支援　　◇評価
つかむ	1 調べた言葉の数を報告し合う。 2 国語辞典を楽しく引く約束を再確認する。	□「一週間でどれだけ言葉を見つけられたかな。」 ◆児童の意欲を褒める。 ～国語辞典を楽しく引こう～ ①ふせんに番号と言葉をかいてはる。 ②見つけた言葉は声に出して読む。	 ▲１週間で辞書が付箋でいっぱいに
ふかめる	3 国語辞典の特徴を発表し合う。 4「どっちが先に載っている？」クイズをする。 5 実際に辞典を引き，確認し合う。 6「親友」という言葉について考え，国語辞典を引いて，意味をノートに書き写す。	□「国語辞典ってどんな本かな。引いてみて気付いたことはありますか。」 ◆五十音表を配布する。 ◆「うさぎ」と「かめ」，「うま」と「うし」など，いくつかの言葉で考えさせる。 □「『お手紙』の中に出てきた，『親友』ってどんな意味かな。」 国語辞典は・・知っている言葉をさがすこともできる。 知らない言葉をさがして知ることもできる。	◇国語辞典の特徴に気付いている。[発表] ☆言葉が見つけられない児童への支援を行う。 ◇知りたい言葉を見つけ出すことができたか。 ▲調べた言葉をノートに書き込む
ひろげる	6 学習を振り返って感想を発表する。	◆気になった言葉やその意味は，ノートに書き出す方法もあることに気付かせる。	

⑤ 本時の評価

知りたい言葉を国語辞典からさがし出すことができたか。

(3) 指導案　第３時　（12 月 5 日）

① 本時の目標

・国語辞典には言い切りの形（終止形）で記載されていることを知る。

② 授業仮説

・文章中の言葉をそのまま調べさせることで，語形変化に気付き，国語辞典に掲載してある言葉（終止形）について理解することができるであろう。

・教師が「ワードハンティング辞典」の例を示すことで，ゴールが明確となり，学習への意欲が高まるであろう。

③ 教具・諸準備

・国語辞典　・付箋　・ワードハンティング辞典　・様々な分野の辞書や事典

④ 本時の展開

	主な学習活動	◆指導上の留意点　□発問	☆支援　◇評価
つかむ	1　調べた言葉の数を報告し合い，国語辞典を引いて気がついたことを発表する。	◆児童の意欲を褒める。	 ▲たずねました･･･どこにある？
ふかめる	2「たずねました」の意味を知りたいときの引き方を考える。	□「『お手紙』にできてきた『たずねました』の意味を知っていますか。調べてみよう。」 「たずねました」の意味を国語辞典で調べてみよう ◆「たずねました」は国語辞典に載っていないことに気付かせ，「たずねる」という語彙変化について知らせる。	◇意欲的に国語辞典を引いている。[観察]
ひろげる	3「下ろして」「うれしく」などの言葉についても考え，調べてみる。	◆言葉は変化するものがあり，国語辞典にはもとの形で載っていることに気付かせる。	◇国語辞典には言い切りの形(終止形)で掲載されていることを知ることができた[発表・観察]
	4　意味を知りたい言葉を身の周りから探して調べてみる。 5　ワードハンティング辞典に書き込んだ言葉や意味，自作の文を発表し合う。	◆ワードハンティング辞典を配布し，書き出し方を説明する。 ◆『ワードハンティング辞典』の例を示すことで，ゴールのイメージを持たせる。	☆言葉が見つけられない児童への支援を行う。 ☆例文が書けない児童には，辞書の用例を写してもよいことを告げる。 ◀ワードハンティング辞典の説明
	6　学習を振り返って感想を発表する。	◆学級に様々な種類の辞書・事典を置いておくことを告げ，調べることへの意欲を持たせる。	

⑤ 本時の評価

国語辞典には言い切りの形（終止形）で記載されていることを知ることができたか。

(4) 指導案　第４時（見つけよう！ようすをあらわすいろんなことば　第１時）　（２月２日）

① 本時の目標

・様子を表す言葉について知り，色々な言葉があることに気づくことができる。

② 授業仮説

・教師が様々な歩く動作を実際に見せることで，動きを観察し，その様子を表す言葉を考えることができるであろう。

・様子を表す言葉を聞いて，児童自身も動作化することで，その言葉について考え言葉への理解がより深まるであろう。

③ 教具・諸準備

・国語辞典　・ワードハンティング辞典　・ワークシート　・様子を表す言葉のカード

④ 本時の展開

	主な学習活動	◆指導上の留意点　□発問	☆支援　◇評価
つかむ	1 本時の課題を知る ようすがよくわかることばを考えよう	◆様子を詳しく表す言葉を考えさせる。	 ▲教師の歩き方を観察
ふかめる	2 教師が歩く様子を観察し，その動きを様子がよく分かる言葉で表現する 3 書いた文を発表し合う	□「先生が歩く様子を見て，「先生が［　　］あるく」に言葉を入れましょう。」 ◆様子を表す言葉を使うと歩いた様子がよく分かることを確認する。	☆動きを大きくし，書き表しやすくする。 ◇様子を表す言葉を使って，動きを文に表すことができたか。[ワークシート]
ひろげる	4 様子を表す言葉のカードを見て，動きを動作化する。 ・よろよろ歩く ・元気に歩く ・王様みたいに歩く	◆教室の中を，提示した言葉のように自由に歩かせる。 ▲「王様みたいに歩く」の動作化	☆動きがよく分からない児童がいたら，教師も一緒に動作化し言葉と動きを一致させる。 ◇様子を表す言葉が表している内容を考えている。[観察]
	5 ワークシートに学習の振り返りを書き，発表する。	◆様子を表す言葉には色々な言葉があり，使うとより様子が分かりやすくなることに気付かせる	◇様子を表す言葉には色々な言葉があることに気付くことができたか。 [観察・ワークシート]

⑤ 本時の評価

様子を表す言葉について知り，色々な言葉があることに気づくことができたか。

(5) 指導案　第５時（見つけよう！ようすをあらわすいろんなことば　第２時）　（2 月 3 日）

① 本時の目標

・擬態語，擬声語を使って表現することができる。

② 授業仮説

・擬態語で表現する場面において，写真や動画を使って雨の様子を見ることで，表現しやすくなるであろう。

・擬態語で表現する場面において，物語を聞きイメージを広げることで，様々な場面の様子を，表現する力が身につくであろう。

③ 教具・諸準備

・国語辞典　・ワードハンティング辞典　・ワークシート　・雨の写真と動画

④ 本時の展開

	主な学習活動	◆指導上の留意点　□発問	☆支援　◇評価
つかむ	1 本時の課題を知る。 音や動きのようすがよくわかることばを考えよう。		 ▲雨の写真を見て，様子を文に表す
	2 教科書を読み，擬態語について知る。	◆擬態語の例を示し，理解させる	
ふかめる	2 雨の写真や動画を見て擬態語を使って表現する	◆視覚的にも聴覚的にもとらえさせ，表現しやすくする。	
	3 書いた文を発表し合う		◇擬態語を使って，様子を表す文を書くことができたか。[ワークシート]
	4 物語を聞き，それぞれの場面に適した擬態語を使って表現する。	◆情景や様子を擬態語を使って表現させる。	☆物語をゆっくりと読み，考させる時間をとる。
	5 書いた文を発表し合う。	◆友達の発表を聞き，いろんなとらえ方で表現していることに気づかせる。	◇場面にあった擬態語を使って，様子を表すことができたか。[ワークシート]
ひろげる	6 絵本「のはらうた」の読み聞かせを聴く。 7 ワークシートに学習の振り返りを書き，発表する。 8 気になった言葉をワードハンティング辞典に書き込む。	◆色々な擬態語の表現に触れさせおもしろさや表現の豊かさを感じ取らせる。 	◇様子を表す言葉には色々な言葉があることに気付くことができたか。[観察・ワークシート]

▲辞書で意味を調べて，ワードハンティング辞典に書き込む

⑤ 本時の評価

擬態語，擬声語を使って表現することができたか。

(6) 指導案　第６時（見つけよう！ようすをあらわすいろんなことば　第３時）　（2 月 4 日）

① 本時の目標
・比喩を使って表現することができる。
② 授業仮説
・比喩表現を使い，写真の様子を分かりやすく説明する場面において，相手意識を持たせることで，より分かりやすい比喩で表現しようと思考するであろう。
③ 教具・諸準備
・国語辞典　・ワードハンティング辞典　・ワークシート　・色々な写真
④ 本時の展開

	主な学習活動	◆指導上の留意点　□発問	☆支援　◇評価
つかむ	1 本時の課題を知る たとえのことばをつかって，しゃしんのようすをせつめいしよう 2 教科書を読み，比喩について知る。	◆～ように，～みたいなという言葉に注目させる。	
ふかめる ひろげる	3「スイミー」に出てきた文章を振り返る。 4 一枚の写真を提示し，比喩を使ってその写真の様子を説明する文章を書く。 5 書いた文を美和子先生に伝え，イメージを広げてもらう。 6 5 枚の写真を見て，気に入った写真の説明を比喩を使って書く。 7 ペアで文を紹介し合い良さを伝え合う。	◆「にじ色のゼリーのようなくらげ。」などの文章を掲示し，学習したことを思い出させる。 □「後ろを向いている美和子先生がイメージしやすいように絵の説明を考えよう。」 ◆比喩を使って書かせる。 ▲写真の様子を説明する児童 ◆～のような＿＿＿。～みたいな＿＿＿。という表現方法を再度押さえる。	☆比喩表現が難しい児童には色や形に注目させ，似ているものを考えて表現させる ◇比喩を使った文を書くことができる。[ワークシート] ▲比喩を使って写真を説明する
	8 ワークシートに学習の振り返りを書き，発表する。 9 気になった言葉をワードハンティング辞典に書き込む。	◆学習した比喩表現を，日記や会話など，生活の中に積極的に取り入れることを進める。	◇様子を表す言葉を知り，その使い方について理解している。[観察・ワークシート]

⑤ 本時の評価
比喩を使って表現することができたか。

(7) 指導案　第７時（見つけよう！ようすをあらわすいろんなことば　第４時）　（2 月 5 日）

① 本時の目標

・提示された言葉を使って，様子を表す文をつくることができる。

② 授業仮説

・短文づくりを行う場面で，様々な様子を表す言葉が提示されてあることで，既習の内容を振り返り，確認することができるであろう。

・短文づくりを行う場面で，グループで相談して一つの言葉を使って文に表現することで，色々な表現の仕方があることに気づくであろう。

③ 教具・諸準備

・国語辞典　・ワードハンティング辞典　・ワークシート　・教科書の拡大図

④ 本時の展開

	主な学習活動	◆指導上の留意点　□発問	☆支援　◇評価
つかむ	1 本時の課題を知る。 教科書のことばをつかって，ようすをあらわす文をつくろう		
	2 教科書に示されてある言葉を読む。	◆教科書の拡大図を掲示する。	
ふかめる	3 教科書の言葉を使って短文づくりをする。	◆ワークシートの例文を読み，書き方を確認する。 ◆主語・述語の学習を振り返り，意識して文を書かせる。	☆スムーズに取り組めない児童にはその言葉に続く言葉から考えさせる。
	4 グループ内で，書いた文章を発表し合い，書き方や使い方を確認し合ったり，よさを認め合ったりする。	◆まず，グループで同じ言葉について短文をつくり，時間があれば他のことばをつかって書かせるようにする。	◇主語と述語を意識して書いている。[発表・ワークシート]
ひろげる	5 発表したいグループは前に出て，書いた短文を一人ずつ発表する。	◆友達の表現のよさや，同じ言葉でも色々な表現の仕方があることに気付かせる。	 ▲グループで短文づくりをする
	6 ワークシートに学習の振り返りを書き，発表する。 7 気になった言葉をワードハンティング辞典に書き込む。	◆今日の短文づくりを生かし，様子を表す言葉を日記や会話など，生活の中に積極的に取り入れることを進める。	◇様子を表す言葉を知り，その使い方について理解している。［観察・ワークシート］

⑤ 本時の評価

提示された言葉を使って，様子を表す文をつくることができたか。

(8) 指導案　第８時　（本時）　（見つけよう！ようすをあらわすいろんなことば　第５時）

第２学年国語科学習指導案

平成２７年２月６日（金）　５校時
宮古島市立下地小学校　２年１組
男子１５名　女子１３名　計２８名
授　業　者　大庭　優子

1 単元名　見つけよう！ようすをあらわす　いろんなことば
教材名　「ようすをあらわすことば」

2 単元の指導目標
◎さまざまな様子を表す言葉について知り，言葉への興味を広げ，表現することができる。
◎国語辞典を意欲的に活用することができる。

3 単元について
(1) 教材観
本単元は，言葉について考える単元であり，「様子をより詳しく伝える言葉」について学ぶ内容となっている。教材では，主語と述語がはっきりと提示されている基本的な文に，写真をもとにして，擬態語，形容詞，比喩表現などのようすをあらわすことばを加えていく。ようすをあらわす言葉を探したり，より適切な言葉を使おうとする意識を持たせたりすることで，状態やイメージがより鮮明に生き生きと伝わる「明確な表現」を学んでいくことができる。本時では，教材の発展的な学習として，言葉について考え，より多くの言葉と出会わせることで，豊かな表現力の育成につなげていきたいと考えている。また，本単元を通して学んだ擬態語や比喩などの表現は，次単元「詩を書こう」の学習で生かせるようになっており，単元のつながりを意識し，擬態語や比喩のよさやおもしろさ，様々な表現のよさを感じさせる指導の工夫が必要であると考える。
(2) 児童観
児童は，本単元で学習する擬態語や擬声語を日常生活の中でよく使っている。児童同士の会話の中にもよく使われている。ただ，児童はあまり意識せずに使っているようだが，擬態語や擬声語は情感豊かに表現するうえで，極めて大切なものである。また，1 学期の教材「スイミー」の中で，「にじ色のゼリーのようなくらげ。」「水中ブルドーザーみたいないせえび。」など，比喩表現の文章にもふれている。本学習の中で改めてその文章をふり返り，比喩のよさについても考えさせたい。そして，本学級の児童の言語についての課題としては，語彙の少なさがあげられる。学習活動の中で，言葉の意味が分からないために，質問や説明に時間を要したり，理解が深まりにくかったりすることがよくあった。しかし，11 月からの国語辞典活用をきっかけに，言葉への興味が大きく変わってきている。教科書に出てくる言葉や，教師の話の中に出てくる言葉の意味を自ら調べるようになり，難解な語彙も理解できるようになってきた。言葉に敏感になってきた児童に，本単元を通して更に言葉への興味・関心を広げ，的確な表現の良さに気付かせていきたいと考えている。

(3) 指導観
本単元では，学習指導要領「B 書くこと」の指導事項「ウ　語と語や文と文との続き方に注意しながら，つながりのある文や文章を書くこと」，[伝統的の言語文化と国語の特質に関する事項]「イ　言葉の特徴やきまりに関する事項」の中から「(ｱ) 言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。」「(ｶ) 文の中における主語と述語の関係に

注意すること。」に基づいて指導をおこなっていく。評価規準を下記のように設定し，様子を表す言葉は，書かれていることの読み取りや，自分の伝えたいことをより詳しくすることに活用できることを理解させていきたい。様子を言葉で表しやすくするために，教材に示されている写真だけでなく，動作化して動きを見せたり，実際に音を聞かせてみたりし，そこから豊かな文章表現へとつなげていきたいと考えている。また，多様な表現で書かれている絵本を紹介することで，より広がりのある表現にふれる機会をつくり，更に言葉を工夫するおもしろさを感じてほしいと期待している。本時では，「見る」という言葉に注目し，言葉を変えると様子や状況が違ってくることに気づかせていく。言葉への興味・関心が高まることで，言葉を知りたいという思いとなり，言葉を知ることで，実際に使ってみたいという思いへとつながっていくのではないかと考える。授業では言葉を知りたいという意欲を高め，自ら調べ，実際に使って文章に表す活動をおこなっていきたい。また，学んだことを自らの語彙力として定着させるには，活用の経験が重要である。新たな言葉を文章に表現するだけでなく，相手に伝える活動を伴うことで自分自身の言葉となり，語彙力が育成されると考える。本時の授業ではそれらの活動を取り入れ，児童の語彙力の向上を図っていくようにしたい。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・様子を表す言葉に興味をもち，そのあらわす内容を考えようとしている。 ・意欲的に国語辞典を引いている。	・言葉の意味をとらえ，つながりのある文を書いている。(1) ｳ	・様子を表す言葉を知り，その使い方について理解している。 (1)イ(ｱ) ・主語と述語を意識して書いている。 (1)イ(ｶ)

5 研究との関わり

(1) 研究主題

「語彙力を高める学習指導の工夫」

―低学年から国語辞典に慣れ親しむ活動を通して―

(2) 研究仮説

学習の基礎を身に付ける低学年の段階において，国語辞典に慣れ親しむことで，言葉への関心が高まり，語彙力の向上が図れるであろう。

(3) 研究と本単元との関わり

現在，上記の主題のもと研究実践を進めている。主題設定の理由として，日々の関わりの中で児童の語彙力の乏しさを感じていたことと，「語彙は思考活動の基盤をなすもの」という思いがあったからである。語彙力の向上を図る手段として，本学級の児童は，11 月から国語辞典の活用に取り組んでいる。国語辞典の学習は 3 年生で行うものだが，2 年生でも十分に活用することができると実感している。学習への意欲が高く，より多くの言葉を吸収していく低学年の段階から語彙に敏感になり，様々な語彙を知ることで，表現力や思考力の向上も期待できるのではないかと考えている。そして，本単元では様子をあらわす言葉について学び，言葉への興味を広げて表現することを目標としているが，児童が日常的に使用している国語辞典を効果的に活用し，言葉への興味を広げる教材にしたい。国語辞典＝意味を調べるもの，というだけでなく，本単元のような言葉を知る学習でも効果的に活用し，楽しく語彙を増やしながら，豊かな語彙力の育成へとつなげていきたいと考えている。

6「見つけよう！ようすをあらわすいろんなことば」単元指導計画（6時間扱い）

時	●目標　○主な学習活動　◎国語辞典の活用	◆指導上の留意点	◇評価規準
1	●様子を表す言葉には，色々な言葉があることを知ることができる。 ○担任の動作を見て，その様子を表す言葉を考える。 ○様子を表す言葉を聞いて，その言葉が表す様子を表現する。 ◎わからない言葉があれば随時調べる。気になった言葉をワードハンティング辞典に書き込む。	◆教師が歩く様子をじっくりと観察させる。 ◆体感することで様子をあらわす言葉への理解を深めさせる。	◇様子を表す言葉に興味をもち，その表す内容を考えようとしている。 [観察・ワークシート]
2	●擬態語・擬声語を使って表現することができる。 ○雨の写真や動画から擬態語を考える。 ○物語の場面に適した擬態語を考える。 ○絵本「のはらうた」の読み聞かせを聴く。 ◎わからない言葉があれば随時調べる。気になった言葉をワードハンティング辞典に書き込む。	◆視覚的にも聴覚的にもとらえ，様子を表現させる。 ◆絵本から様々な言葉の表現に触れさせる。	◇様子を表す言葉を知り，その使い方について理解している。[ワークシート]
3	●比喩を使って表現することができる。 ○「スイミー」の文章をふり返る。 ○いくつかの写真を見て，比喩を使った様子を表す文を考える。 ○ペアで文を紹介し合い，よさを伝え合う。 ◎わからない言葉があれば随時調べる。気になった言葉をワードハンティング辞典に書き込む。	◆「スイミー」の文章から，たとえるものとたとえられるものの共通性を考えさせる。 ◆友達の表現のよさに気づかせる。	◇様子を表す言葉を知り，その使い方について理解している。[ワークシート]
4	●提示された言葉を使って，様子をあらわす文をつくることができる。 ○主語・述語を意識して，様子をあらわす言葉をつかった短文づくりをする。 ○グループで発表し合い，よさを伝え合う。 ◎わからない言葉があれば随時調べる。気になった言葉をワードハンティング辞典に書き込む。	◆主語・述語について学習を振り返る。 ◆スムーズに取り組めない児童には，その言葉に続く言葉から考えさせる。	◇様子を表す言葉を知り，その使い方について理解している。[ワークシート] ◇主語と述語を意識して書いている。[ワークシート]
5 本時	●言葉には様々な表現があることを知り，それらを使って書いた文を相手に伝えることができる。 ○文の内容を想像して，様子の違いを考える。 ◎国語辞典から「見る」ことを表した言葉を探す。 ○使ってみたい言葉を選び文をつくり，発表し合う。 ◎わからない言葉があれば随時調べる。気になった言葉をワードハンティング辞典に書き込む。	◆文を書いたり，友達が書いた文を聞いたりすることで言葉の使い方への理解を深めさせる。	◇様子を表す言葉を知り，その使い方について理解している。[観察・ワークシート]
6	●言葉の意味を調べ，その動きを考えて，文を書くことができる。 ◎「見る」ことを表した言葉（各グループ１つ）の意味を調べ，動きを考えて表現する。 ○文をつくり，グループ・全体で発表し合う。 ◎わからない言葉があれば随時調べる。気になった言葉をワードハンティング辞典に書き込む。	◆「見る」動きを表したカードを用意し，動きを話し合わせ表現することで，意味理解を深めさせる。	◇言葉の意味をとらえ，つながりのある文を書いている。[観察・ワークシート]

7　本時の指導

(1)　本時の目標

言葉には様々な表現があることを知り，それらを使って書いた文を相手に伝えることができ

(2)　授業仮説

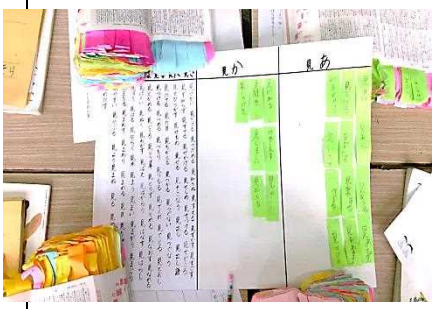
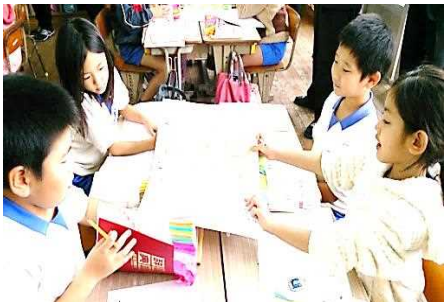
・言葉への興味を広げる学習において，国語辞典を活用することにより，楽しみながらより多くの語彙を獲得することができるであろう。

・文章に表現する場面において，１ つの言葉に注目して変化をとらえることにより，容易にイメージを広げることができ，表現の豊かさに気づくことができるであろう。

(3)　準備するもの

語彙表，付箋，ワークシート，国語辞典

(4)　本時の展開（５／５）

	主な学習活動	◆指導上の留意点	☆支援　　◇評価
つかむ	**１ ２つ文の内容を想像して，違いを考える。** ・ぼくは，昨日，こうえんでカエルを見た。 ・ぼくは，昨日，こうえんでカエルを見つめた。 **２ 本時のめあてを確認する。**	◆同じ「見ること」でも状況が違うことに気付かせ，どう違うのか考えさせる。	◇様子をあらわす言葉を知り，その使い方について理解している。［観察］
	「見る」にかんけいすることばの 文をつくって 発表しよう		
ふかめる	**３ 「見る」ことを表した言葉を，国語辞典から　探し出す。（あ行・か行）** ▲国語辞典から言葉を探す	◆教師が調べた語彙表を提示し，言葉への興味を高める。 ◆言葉の多さに気付かせる。  ▲見つけた言葉を貼っていく	◇意欲的に国語辞典を引いている。［観察・語彙表］ ☆言葉が見つけられないグループに声かけをする。
ひろげる	**４ クループで使ってみたい言葉を話し合って選び，文を作る。**  ▲話し合って言葉を選ぶ	◆主語と述語を意識して文を書かせる。 ▲話し合って言葉を選ぶ	◇主語と述語を意識して文を書いている[ワークシート] ◇言葉の意味をとらえ，つながりのある文を書いている。［観察・ワークシート］

	5 作った文を発表し合う。（グループ・全体） ▲つくった文をみんなに紹介する様子 6 今日の学習を振り返って感想を書く。 7 気になった言葉をワードバンティング辞典に書き込む。	◆使い方はよいかグループで確認させる。 ◆友達の文を聞くことで言葉の使い方への理解を深めさせる。 ◆これから文章や会話の中で，色々な言葉を使ってみることを確認する。	☆うまく文章に書き表せない児童には言葉を動作化したり，わかりやすく説明したりして，文章化させる。

(5) 本時の評価

言葉には様々な表現があることを知り，それらを使って書いた文を相手に伝えることができたか。

8 板書

国語辞典から見つけた言葉の中から，グループで使ってみたい言葉を決め，意味を調べて，文章をつくる。

「見る」ことを表した言葉を考えて，挙げてみる。

見つけよう！ ようすをあらわす いろんなことば

①ぼくは，きのう，こうえんでカエルを見た。

②ぼくは，きのう，こうえんでカエルを見つめた。

め「見る」にかんけいすることばの 文をつくって はっぴょうしよう。

・見つける
・見まもる
・見上げる
・見まわす

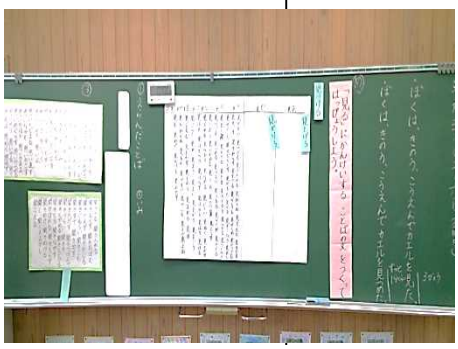
見か 見あ

「見る」の語彙表

①えらんだことば

②いみ

③つくった文



▲写真 11 検証授業時の板書

▲図４ 板書

「見た」と「見つめた」の違いを考え，様子をイメージしながら、「見つめた」にすると何が違うのか，話し合う。

9 授業後の指導助言

・児童の学ぶ姿勢が大変よかった。
・辞書に貼られた付箋が，児童の学びの足跡となっている。
・児童が，辞書の必要感を感じている様子が伝わってきた。
・「み」の付く言葉と勘違いしている児童がいた。「見る」という言葉をもっと強調することで，辞書から探しやすくなったのではないか。
・「見る」の動きのヒントカードがあるとよい。
・2 年生の児童にはレベルが高い内容といえる。言葉遊びにつなげたり，知っている言葉にしぼったりして学習することもできる。

▲写真 12　授業後の指導助言及び講話

・ワードハンティング辞典は，卒業まで取り組んでいくことで，自分が獲得したことばを辞書として残すことができ，言葉に対する意識が育っていく。
・語彙は，日々の小さな積み重ねが何より大切である。意識して学習の中に取り入れていく必要がある。

10 参観者の感想

・低学年から辞書を活用している子どもたちの言語能力も良かった。低学年で習得しない漢字等にも興味を持っている点も良い。
・子ども達がとても意欲的に取り組んでいたので，驚きました。また，辞書活用の積み重ねも目に見えて，子ども達が充実感を味わうひと工夫だと思いました。
・辞典で学んだ言葉に付箋をつける事が，学びの足跡になると聞き，学習したことが見える方が，達成感・学習への満足感を得られることに気付きました。“自分が何をどれだけ学んだか”を視覚化させ，学級での学習につなげていきたいと思います。
・辞書の活用法など勉強になりました。“言葉に気づかせ，文に表し，発表する。”自校にもち帰って実践したいと思います。

11 考察

・グループで協力し合って言葉を探すことで，違う言葉を見つけていたら指摘したり，言葉を確認し合ったりしていた。グループ活動によって，言葉への理解や関心に深まりが出たと考える。
・2 年生の段階では，本時間内に言葉の意味を正確に理解し，正しい文章で表現することは難しいと考える。学習した言葉をこれから意識して使わせるようにし，日常の中で頻繁に使う中で，自分の語彙として獲得させたい。
・「見る」に関する言葉以外にも，様々な言葉を広げて調べていく時間を設けたい。
・国語辞典の更なる活用法を研究していきたい。

(9) 指導案　第９時（見つけよう！ようすをあらわすいろんなことば　第６時）　（2 月 9 日）

① 本時の目標

・言葉の意味を調べ，その動きを考えて，文を書くことができる。

② 授業仮説

・カードの言葉を使って文章に表す場面において，言葉の意味を考え動作化することで，理解がより深まり，正しい使い方で表現できるであろう。

③ 教具・諸準備

・国語辞典　・ワードハンティング辞典　・ワークシート　・言葉のカード

④ 本時の展開

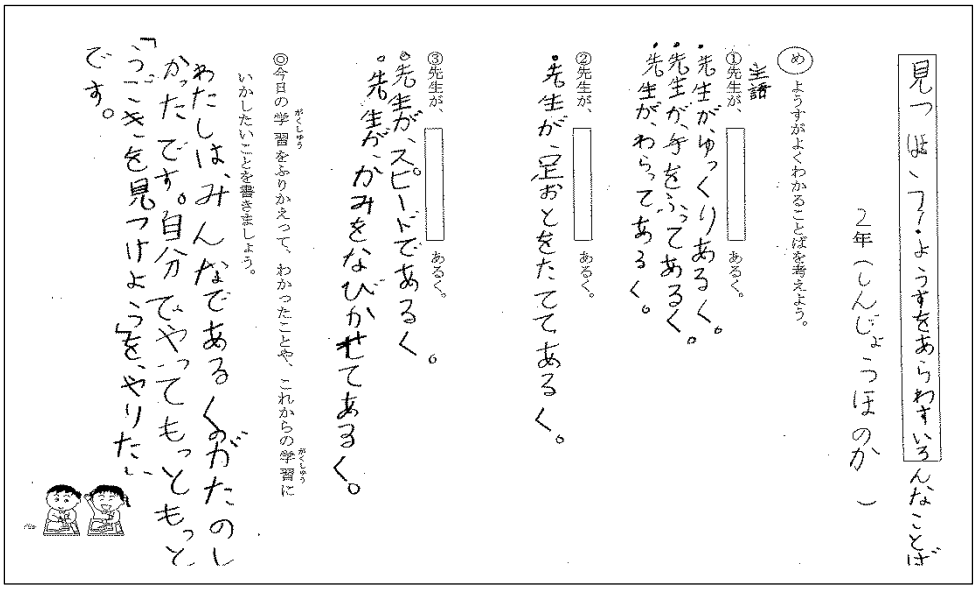
	主な学習活動	◆指導上の留意点　□発問	☆支援　◇評価
つかむ	1 本時の課題を知る。 ことばのいみを考えて，お話をつくろう		
	2 言葉のカードを引く	◆見つめる・見まわす・見守る・見下ろす・見上げる・見比べる・見直すの言葉を用意する。	
ふかめる	3 カードの言葉の意味を調べ，グループでその動きを考える。	◆カードに書かれた言葉の動きを話し合わせ，表現することで，意味理解を深めさせる。 ◆グループで協力して動きを考えさせる。	☆戸惑っているグループには「見る」との違いを意識させ動作化を工夫させる。
	4 考えた動きをもと，にその言葉を使って文章に書き表す。	◆2 文以上書き，その様子を詳しく説明する文を書くように指示する。	◇意味や動きについて，友達と協力し合って調べ，考えることができた。[観察]
ひろげる	5 順番に前に出てきて，グループごとに言葉の意味と動き，書いた文章を発表する。	◆「見る」との違いを意識させて他のグループの動きをしっかり観察させる。	◇言葉の意味をとらえながら，つながりのある文を書くことができたか。[観察・ワークシート]
	6 ワークシートに学習の振り返りを書き，発表する。 7 気になった言葉をワードハンティング辞典に書き込む。	◆これから，文章や会話の中で色々な言葉を使ってみることを進める。	

⑤ 本時の評価

言葉の意味を調べ，その動きを考えて，文を書くことができたか。

(10)「見つけよう！ようすをあらわす いろんなことば」　児童のワークシート

（第１時～第６時）



見つけよう！ようすをあらわすいろんなことば

2年（しんじょうほのか）

め　ようすがよくわかることばを考えよう。

主語

①先生が、［　　］あるく。
・先生がゆっくりあるく。
・先生が、手をふってあるく。
・先生が、わらってあるく。

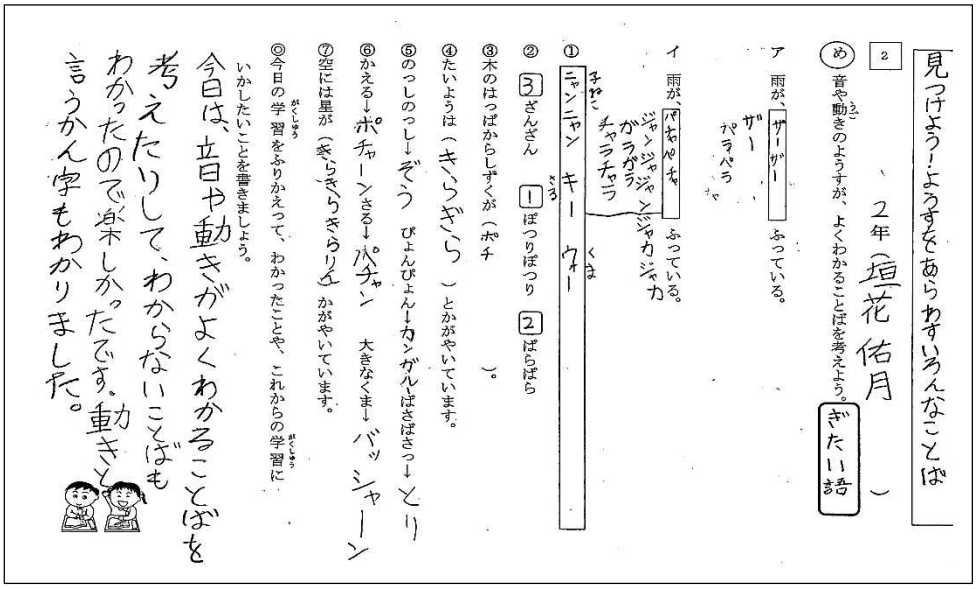
②先生が、［　　］あるく。
・先生が、足おとをたててあるく。

③先生が、［　　］あるく。
・先生が、スピードであるく。
・先生が、かみをなびかせてあるく。

◎今日の学習をふりかえって、わかったことや、これからの学習にいかしたいことを書きましょう。

わたしは、みんなであるくのがたのしかったです。自分でやってもっともっと「うごき」を見つけようをやりたいです。

◀ 図5　第一時ワークシート



見つけよう！ようすをあらわすいろんなことば

2年（垣花佑月）

め　音や動きのようすが、よくわかることばを考えよう。［ぎたい語］

ア　雨が、［ザーザー］ふっている。
ザー
パラパラ

イ　雨が、［パチパチ］ふっている。
ジャンジャン
ガラガラ
チャラチャラ

①［ニャンニャン　キー　ウォー］
子ねこ　くま

②［3］ざんざん　［1］ぽつりぽつり　［2］ぱらぱら

③木のはっぱからしずくが（ポチ　　）。

④たいようは（きらぎら）とかがやいています。

⑤のっしのっし→ぞう　ぴょんぴょん→カンガルー　ばさばさっ→とり

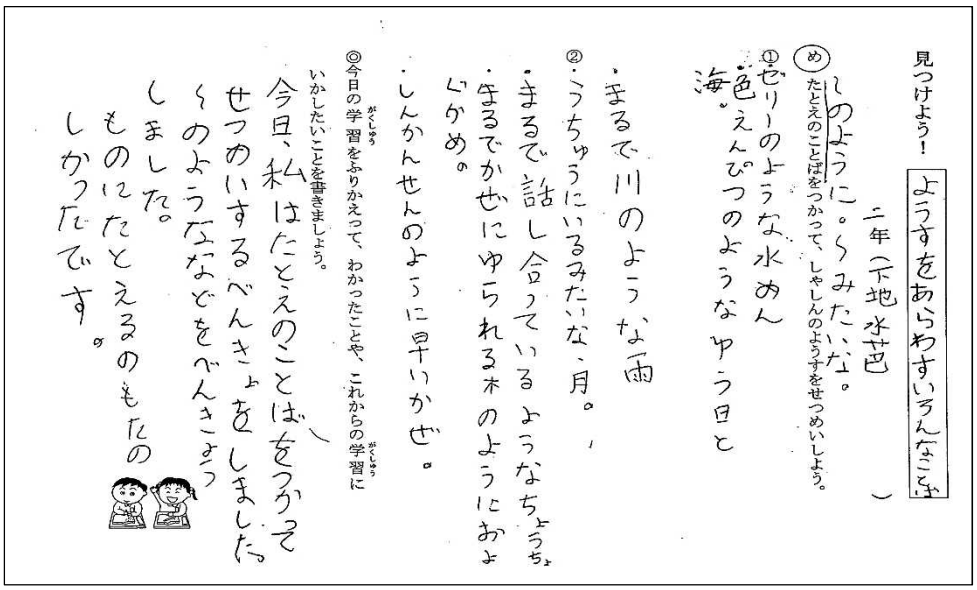
⑥かえる→ポチャーン　さる→パチャン　大きなくま→バッシャーン

⑦空には星が（きらきらきらり）とかがやいています。

◎今日の学習をふりかえって、わかったことや、これからの学習にいかしたいことを書きましょう。

今日は、立日や動きがよくわかることばを考えたりして、わからないことばもわかったので楽しかったです。動きと言うかん字もわかりました。

◀ 図6　第二時ワークシート



見つけよう！　ようすをあらわすいろんなことば

2年（下地水芭）

め　たとえのことばをつかって、しゃしんのようすをせつめいしよう。

①ゼリーのような水めん
海。えんぴつのようなゆう日と
しのように。くみたいな。

・まるで川のような雨

②・うちゅうにいるみたいな、月。
・まるで話し合っているようなちょうちょ
・まるでかぜにゆられる木のようにおよ
・心かめ。
・しんかんせんのように早いかぜ。

◎今日の学習をふりかえって、わかったことや、これからの学習にいかしたいことを書きましょう。

今日、私はたとえのことばをつかってせつめいするべんきょうをしました。くのようなどをべんきょうしました。ものにたとえるのもたのしかったです。

◀ 図7　第三時ワークシート

見つけよう！　ようすをあらわす　いろんなことば

2年（友利心温）

め　きょうかしょのことばをつかって、ようすをあらわす文をつくろう。

例　つめたい　雨が、ふっている。

海に行ったら、岩が、えんぴつみたいな形をしていた。

すごくびっくりした。

① 雲みたいなふわふわしたわたあめがあった

② こおりみたいな手の人がいる。

③ あたたかいこたつの中に入る。

◎今日の学習をふりかえって、わかったことや、これからの学習にいかしたいことを書きましょう。

わたしは、次は日記とかワードハンテングとかにいかしたいと思います。3年生になってもわすれないようにします。

◀ 図8　第四時ワークシート

見つけよう！　ようすをあらわす　いろんなことば

二年（川満ゆうが）

め　見るにがんけいすることばの文をつくってはっぴょうしよう。

①えらんだことば　見上げる

②いみ　おほうを見る。

③ぼくは空に鳥がとんでいたので空を見上げた。

◎今日の学習をふりかえって、わかったことや、これからの学習にいかしたいことを書きましょう。

ぼくは、見るのことばを見つけるべんきょうをして見るのことばはいっぱいあるんだなと思いました。ぼくは見るのほかにはいっぱいしかないと思ったけどとってもいっぱいあったからすごいと思いました。

◀ 図9　第五時ワークシート（本時）

見つけよう！　ようすをあらわす　いろんなことば

二年（国仲花実）

め　ことばのいみを考えてお話をつくろう。

①えらんだことば　見上げる

②いみ　下から上を見る。空を見上げる。見下ろす。りっぱだと思うきみのおこないは見上げたもの。

③空を見上げた。するとあなの中におちていきました。

◎今日の学習をふりかえって、わかったことや、これからの学習にいかしたいことを書きましょう。

わたしは、ぶんしょうを考えるのがむずかしかったけど、お友だちのをきいてわかったので考えのしかたがでました。

◀ 図10.　第六時ワークシート

Ⅶ　研究仮説の検証

研究仮説	○学習の基礎を身に付ける低学年の段階において，国語辞典に慣れ親しむことで，言葉への関心が高まり，語彙力の向上が図れるであろう。
検証の視点	①低学年の段階で国語辞典に慣れ親しむことはできるか。 ②国語辞典に慣れ親しむことで，言葉への関心は高まるか。 ③国語辞典に慣れ親しむことで，語彙力の向上を図ることはできるか。
検証方法	○日常の辞書引きへの取り組みの様子 ○児童へのアンケート ○保護者へのアンケート ○5 分間しりとり調査 ○文章表現力調査

1 検証視点①　低学年の段階で国語辞典に慣れ親しむことはできるか。

(1) 日常の辞書引きへの取り組みの様子

▲写真 13　授業が早く終わると自由に引き始める

▲写真 14　昼休みにも辞書引きを行う児童

▲写真 15　声を掛け合って共に学んでいく

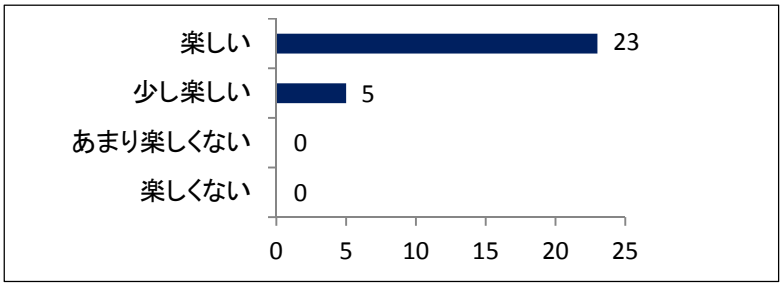
▲写真 16　2000 枚以上の付箋がはられた辞書

国語辞典に慣れ親しむ取り組みとして，辞書引き学習発案者の深谷圭助氏の提言のもと，知っている言葉を探すことからスタートした。気になった言葉を見つけると，①声に出して読み，②付箋にその言葉を書いて貼る，という活動に児童は意欲的に取り組み，辞書の引き方や構造を自然に覚えていくことができた。ルビがふられてある小学生用の辞書は低学年でも読むことができ，色々な言葉を見つけるたびに，まるで宝物を発見したかのような感覚で言葉を読み，付箋に書いている。貼られた付箋の数は見つけた言葉の数であり，学習意欲にあふれる低学年だからこそ，辞書引きへの意欲が高いように感じる。また，国語辞典を身近に感じてきたことで，教科書の言葉や担任の会話に出てきた言葉を調べるようになってきた。児童の様子から，低学年の段階で国語辞典に慣れ親しむことは可能であることがわかった。むしろ，低学年から慣れ親しむことにより，より辞書の活用能力は高まるのではないかと考える。

2　検証視点②　国語辞典に慣れ親しむことで，言葉への関心は高まるか。

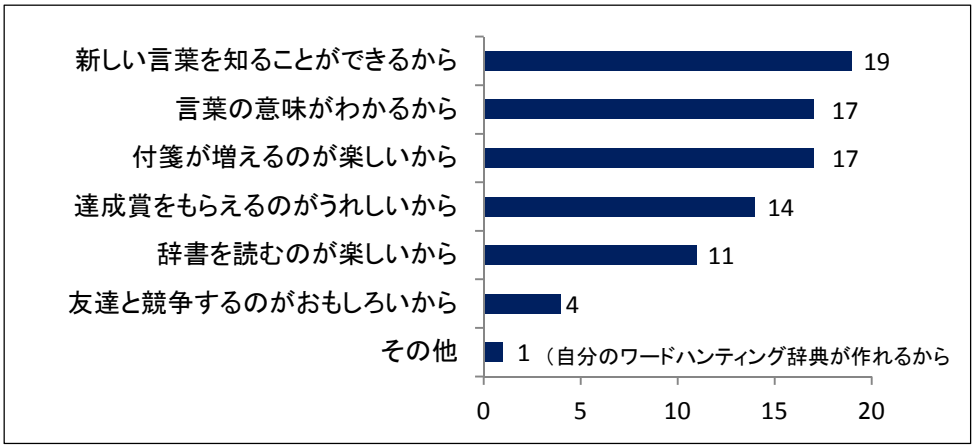
(1) 児童へのアンケート結果

① 国語辞典を引くのは楽しいですか。



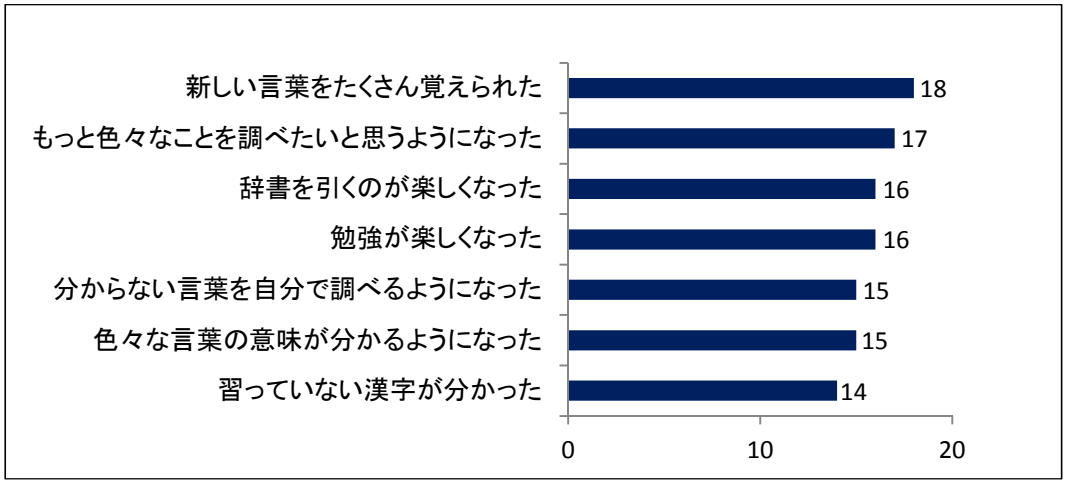
◀ 図５
アンケート①

② ①の答えの理由（複数回答）



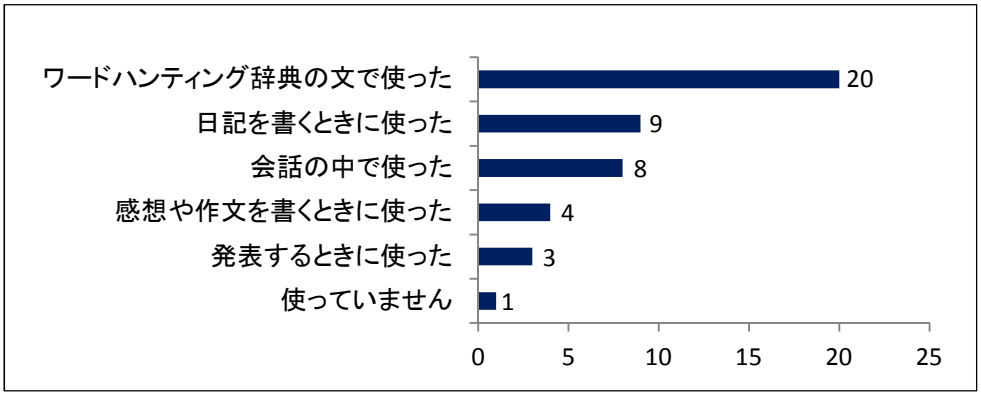
◀ 図６
アンケート②

③ 国語辞典を引くようになって，どんなことが分かったり，できるようになったりしていますか。（複数回答）



◀ 図７
アンケート③

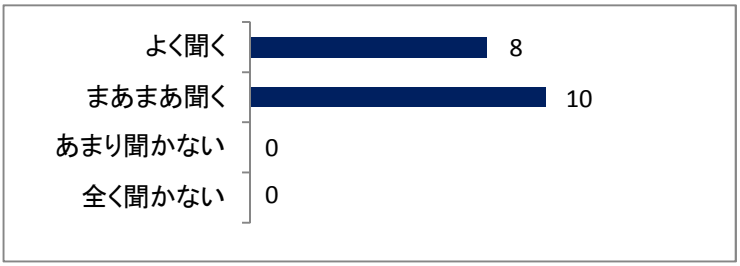
④ 国語辞典で調べて，分かるようになった言葉を使っていますか。（複数回答）



◀ 図８
アンケート④

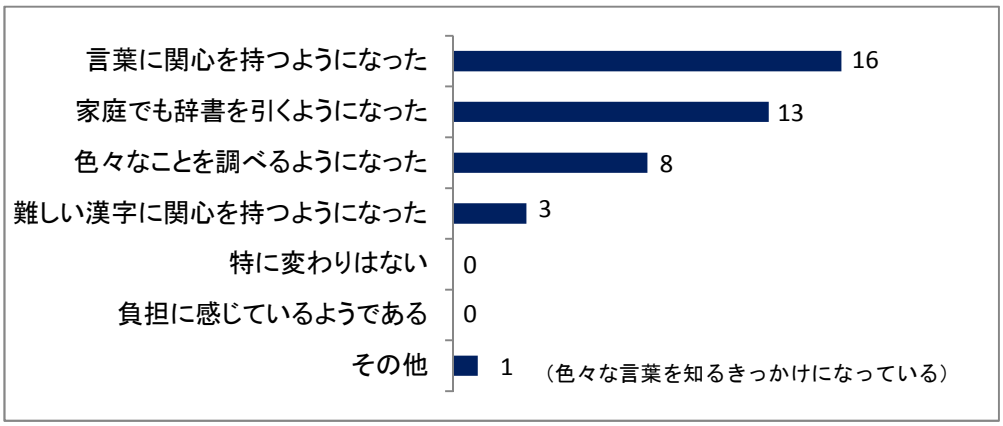
(2) 保護者へのアンケート結果（18 名の保護者からから回答）

① お子さんから，辞書引き学習に関する話を聞いたことはありますか。



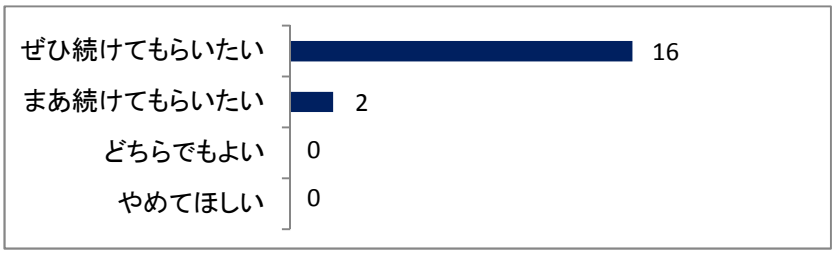
◀図９
アンケート①

② 辞書引き学習を始めてから（11 月以降）お子さんの学習意欲・姿勢に変化はみられましたか。



◀図10.
アンケート②

③ 辞書引き学習の取り組みをこれからも継続してほしいですか。



◀図 11
アンケート③

④ その他，お子さんの様子で気がついたことや感じたこと，要望等があればお書き下さい。

大人の会話の中で、分からない言葉があると質問してきたり、辞書で引いた言葉を耳にすると話しに参加してきたりしています。
言葉の意味だけでなく、使い方などにも興味がわいてきた様子です。

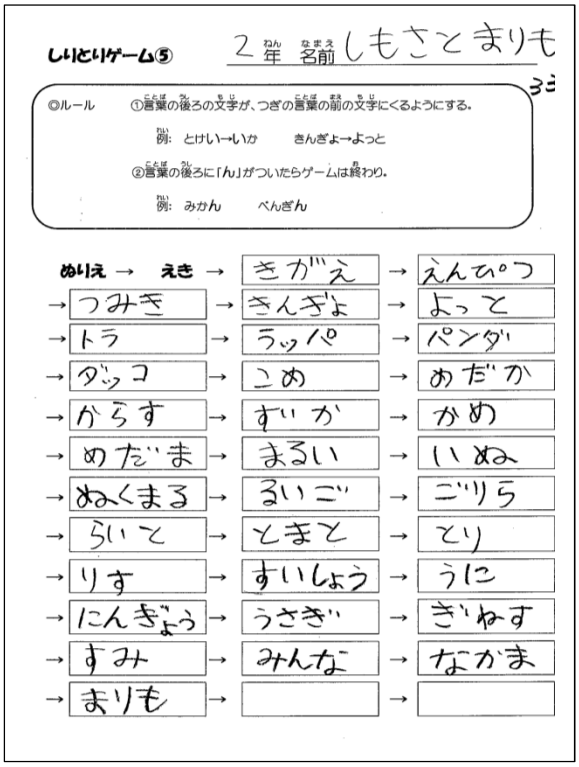
車に乗ってる時や買い物の時など、目に止った物を見て辞典にあったよ、意味はこうこうだよ、と話したりしてます。色々な言葉意味を覚え知る事は大変良いと思いました。

児童アンケート結果から，辞書引きを楽しいと感じていることが分かった。また，色々なことが分かり，できるようになったと感じていることから，自分自身の語彙の獲得を認識していると考えられる。また，保護者のアンケートからも，辞書引きへの意識の高さを感じることができた。保護者も児童が言葉に関心を持つようになり，学ぶ意欲の変化を感じていると答えていることから，国語辞典に慣れ親しむことで，言葉への関心が高まっていくと考えられる。

３　検証視点③　国語辞典に慣れ親しむことで，語彙力の向上を図ることはできるか。

(1) 語彙量の調査結果

▲図 12　５分間しりとりのワークシート（10 月）



▲図 13　５分間しりとりのワークシート（２月）

児童の語彙量を調査するために，5 分間計測して，しりとりをどれだけ続けられるか調べてみた。本来，しりとりは名詞で行うものではあるが，語彙量を調査するための取り組みであるので，動詞や形容詞も許容し，数値として数えることとした。

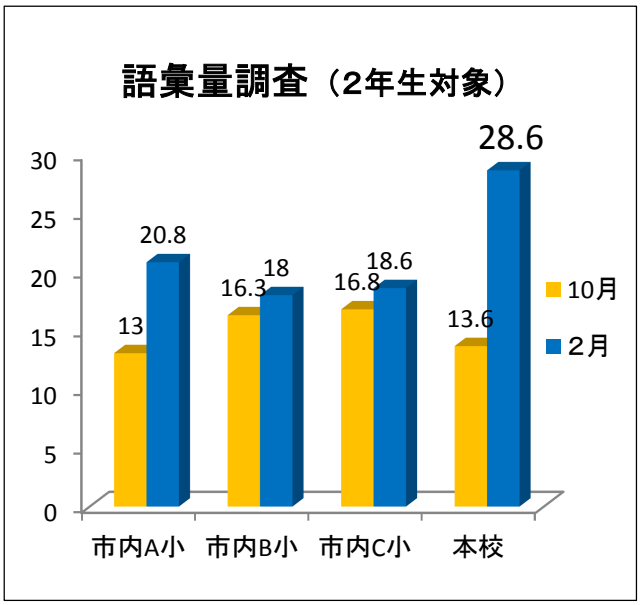
10 月末の段階では，学級の平均が一人あたり１３.６語であったが，2 月中旬には２８.６語となり，15 語も言葉を考え続けられるようになった。また，語彙の量が増えただけではなく，書いている語彙そのものにも大きな変化が見られた。上に掲載した児童のワークシート（図 12，図 13）からも分かるように，生活の中で使う簡単な語彙だけではなく，「ぬくまる，るいご，すいしょう・・」など，難解な語彙を書くようになってきた。

これは，国語辞典に慣れ親しむことにより獲得したものではないかと考えられる。同様に，様々な外来語を書くようにもなり，児童の語彙の広がりを実感している。

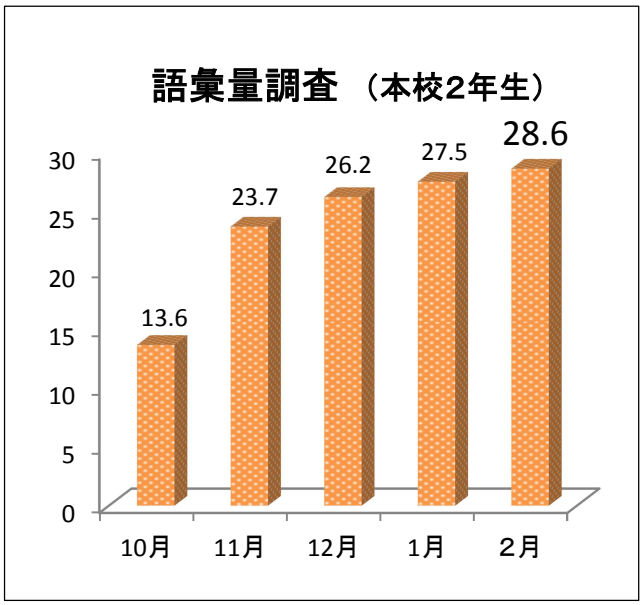
辞書引きにより獲得したと思われる語彙

きみょう，りんかく，いほう，やりくり，じみ，かいめい，まくらもと，じきゅう，ついせき，きんかい，じかく，りっしゅう，うかんむり，らくらい，りったい，らっか，りえき・・
ロマンチック，ルンバ，プレート，ロイド，ルックス，グルメ，リビング，ルート・・

▲表３　５分間しりとりの内容より



▲図 14　語彙量調査結果（宮古島市 3 校＋本校）



▲図 15　語彙量調査結果（本校児童の変容）

10 月 30 日から国語辞典を使用

また，本校児童と同様に 5 分間しりとりを，宮古島市 3 校の 2 年生にも実施してもらった（図 14）。10 月の段階では，本校児童の平均は 13.6 語と，他校に比べて低いことが分かる。語彙の獲得には生活環境が大きく影響していると思われるが，規模が小さく，街中から離れた環境にある本校は，語彙への刺激が少ない現状がある。

しかし，10 月 30 日から辞書引き学習をスタートし，11 月末に 2 回目の 5 分間しりとりを実施したところ，結果の平均が 23.7 語と 11.1 語も増えた（図 15）。国語辞典を使い始めて 1 ヶ月で語彙量が大きく変化し，日々辞書引きを行うことで，更に毎月確実に語彙量が増加している。

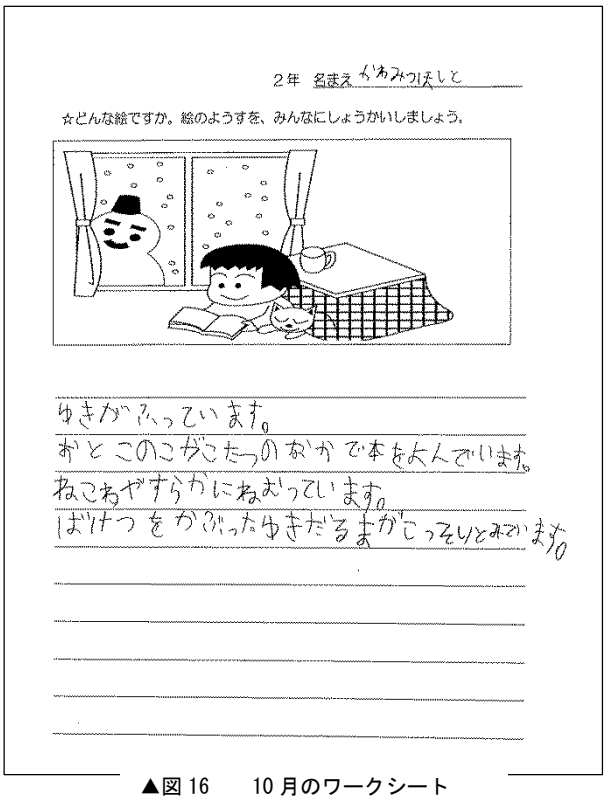
2 月に，市内 3 校に再度実施してもらった結果（図 14）からも分かるように，本校児童の語彙量に大きな伸びが見られ，現在では他 3 校を大きく上回っている。他 3 校は国語辞典を使用していないことから，辞書引き学習の効果であろうと考えられる。また，日常的に辞書引きを行うことで，言葉に興味関心を持つようになり，大人との会話，情報メディア，身の回りに表示されている言葉などを，敏感に受け止めるようになったではないかと推測される。

このようの結果から，国語辞典は語彙の向上へ大きな効果をもたらすことがわかった。

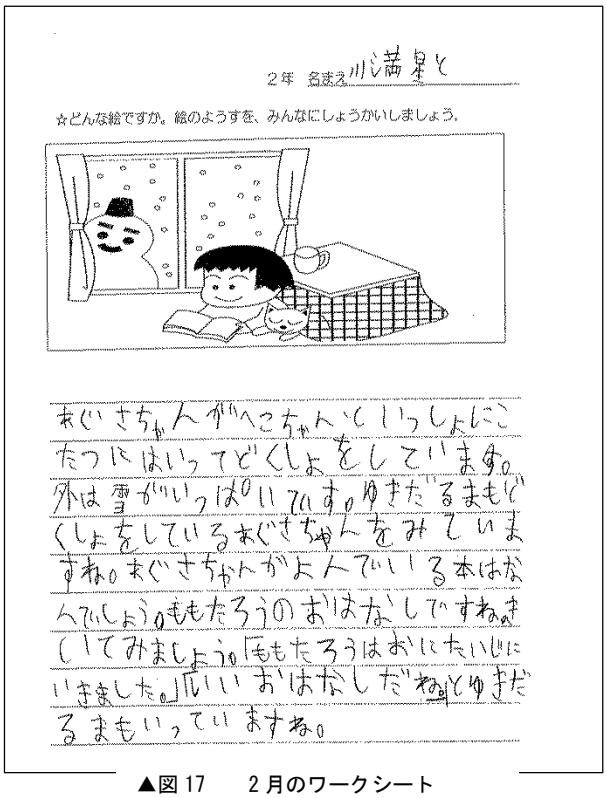
▲写真 17　5 分間しりとりの様子

▲写真 18　5 分間しりとりの様子

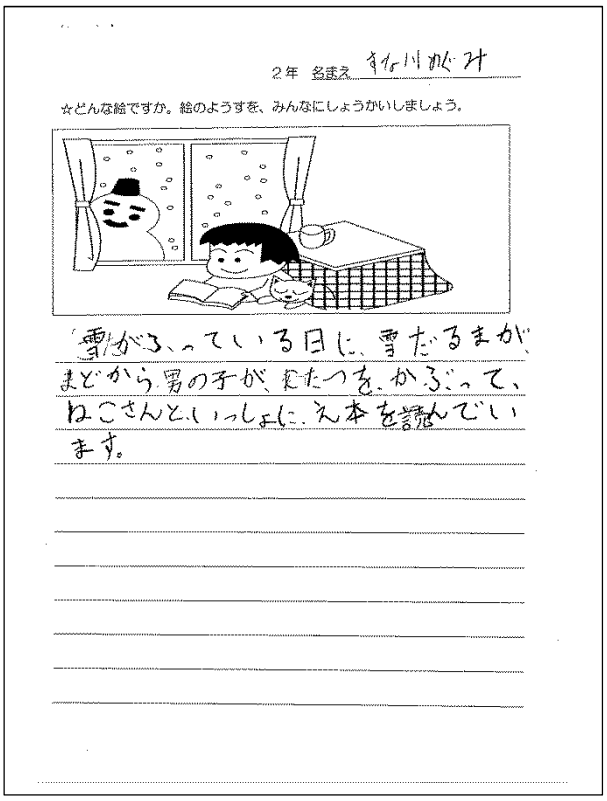
(2) 文章表現力の調査結果



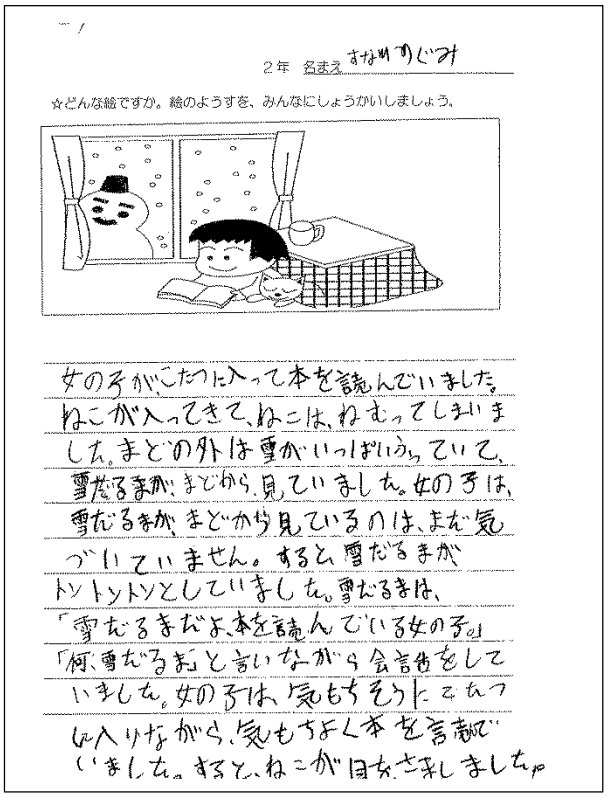
▲図 16　10 月のワークシート



▲図 17　2 月のワークシート



▲図 18　10 月のワークシート



▲図 19　2 月のワークシート

ほとんどの児童が文章を長く書くようになり，様子を詳しく説明したり，人物の感情までイメージを広げたりするようになった。表現も豊かになり，まとまりのある文章になってきている。辞書引きを通して様々な言葉に触れると同時に，書かれている意味を常に声に出して読んでいることや，ワードハンティング辞典に例文を書き込んだりすることなども，語彙力を高め，文章に表現する力につながっていると思われる。これらの結果から，国語辞典に慣れ親しむことにより語彙力の向上は図れると考える。

Ⅷ　研究の成果と課題

１ 成果

(1) 国語辞典に慣れ親しむことで，言葉に関心を持つ児童が増えた。
(2) 学ぶ意欲が高い低学年から国語辞典に慣れ親しむことで，楽しんで国語辞典を引き，辞書を自然に学習に活用するようになった。
(3) 国語辞典を自由に引くことで，従来の「意味調べに活用する」活用法だけではなく，新しい言葉や漢字を知ったり，知っている言葉の意味を再確認したりと，多くの児童が様々な活用法に気づくことができた。
(4) 辞書引きの際に貼る付箋に，数字を順序良く記入することで，数字の配列を正確に理解し，2学年では学習していない 1000 以上の数も書くようになった。
(5) 色々なことを調べる児童が増え，百科事典，漢字辞典，地図，地球儀・・・と多方面に調べる意欲が広がっている。
(6) クラス全体で辞書引きに取り組むことで，お互いに刺激し合いながら，楽しく国語辞典に慣れ親しむことができた。

２　課題

(1) 獲得した語彙を，文章や会話の中で豊かに活用できる指導や取り組みの工夫。
(2) 特別に支援を要する児童への更なる配慮の必要性。（絵辞典を使う，家庭との協力・・等）
(3) 自分の国語辞典を持てるようにするための家庭への協力依頼。
（2 月現在 28 人中 24 人が自分の国語辞典を使用）

〈主な参考文献並びに引用文献〉
深谷圭助（2014）『はじめての辞書引きワーク　国語辞典編』　ベネッセコーポレーション
唐津市立浜崎小学校教諭　岸本佳子　(2010)『マイ辞書活用研修会資料』
www.teacher.ne.jp/jiten/study/syo/jirei/doc/jirei04-01_document02.pdf
文部科学省（2008）『小学校学習指導要領解説編　国語編』　東洋館出版社
深谷圭助（2008）『7 歳から「辞書」をひいて頭をきたえる』　すばる舎
深谷圭助（2008）『なぜ辞書を引かせると子どもは伸びるのか』　宝島社
柴田武　監修（2005）『小学国語辞典』　教育同人社
糸山泰造（2003）『絶対学力　「9 歳の壁」をどう突破していくか？』　文春ネスコ
深谷圭助（1998）『小学校 1 年で国語辞典を使えるようにする 30 の方法』　明治図書
山田一・法則化むべの会（1992）『国語辞典の使い方指導』　明治図書
田近洵一（1987）『たのしいことばの学習』　教育出版

〈指導助言〉
琉球大学　玉城きみ子准教授
南小学校元校長　與儀千寿子氏
福嶺小学校　池村康男校長
福嶺小学校　池田俊男教頭
文部科学省　国立教育政策所　教育過程研究センター　研究開発部学力調査官・教育課程調査官
樺山敏郎氏

〈資料提供〉
石垣市立宮良小学校　崎山晃校長